

トヨタテツDXの取り組み

1. DX推進宣言

当社は、急速に変化する社会環境やお客様のニーズに応えるため、デジタルトランスフォーメーション(DX)を経営の重要な戦略と位置づけ、トヨタグループ一丸となって推進してまいります。

事務・技術・生産準備・生産の全領域の業務にデジタル技術を融合させ、高度化と効率化を図り、競争力のあるものづくりを実現します。また、DXを支える人財の育成にも力を入れ、社員が主体的に学び、変革を牽引する企業文化を醸成します。

DX活動を通じ、新たな価値を創出し、持続可能な社会の実現に貢献します。



代表取締役社長
坂元 康彦

2. トヨタのDXビジョン

持続的な成長と社会課題解決を両立させるため、デジタル技術を活用した新たな価値創造に挑戦します。デジタルガバナンス・コードに基づき、DXビジョン実現に向けた変革を示し、ステークホルダーとの信頼構築に努めます。

内部環境・外部環境分析

- ・EVシフトの変化(BEV拡大鈍化、HEV拡大)
- ・急速な国際情勢の変化による自動車業界への影響
- ・AIなどデジタル技術の発展

経営ビジョン

【基本理念】

オールドトヨタの魅力を集結し、グローバル企業として持続的発展を目指す

【2030年 中期方針】

- 新たな時代に向けて、更なる成長と進化
- ・働きがい向上活動
 - ・地球環境対応
 - ・高品質・高付加価値なものづくり

DXビジョン

デジタル技術を活用して製造の効率化と品質向上を図り持続可能な未来を切り拓く先進的な企業を目指す

【DXで実現する姿】

❖データドリブン経営の実現

- ・的確なデータ分析により、経営・現場の迅速で正しい意思決定を可能にする。

❖リードタイム短縮による競争力向上

- ・生産準備・開発のリードタイムを大幅に短縮し、顧客の期待を超えるスピードと価値を提供する。

❖スマートファクトリーによる収益性向上

- ・注文から納入までの「無人化」「見える化」「迅速対応」により変動環境でも安定的に利益を生み出す生産体制を確立する。

3. 変革の方向性と戦略

持続的成長と社会課題の解決に向けたビジョンの実現に向け、当社は明確な変革の方向性を定め、その実現に向けた具体的な戦略を推進しています。

そのために、変革の方向性と取り組むべき重点施策を整理し、着実な成果創出に向けたアプローチを示します。

実現に向けた戦略

1. デジタル人財の育成と拡充

- ・ DX教育プログラムの強化、選抜研修の実施

2. AI・新技術活用による業務改革の推進

- ・ 生産・開発領域でのAI活用、シミュレーション強化

3. IT基盤の強化

- ・ 統合データプラットフォームの整備
- ・ セキュリティ強化とガバナンス体制の確立

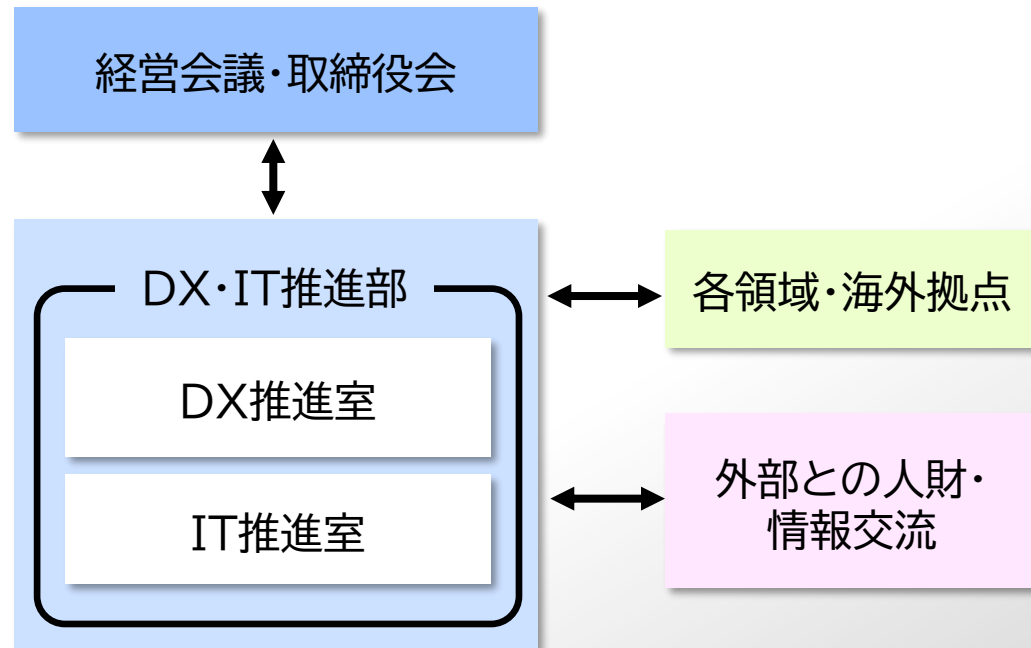
4. DX効果検証と活動の水平展開

- ・ 優良事例の社内展開、KPIで進捗管理
- ・ ガバナンス体制の整備と定期的な進捗モニタリングの実施

4. 実現に向けた戦略

❖推進体制

当社は2022年2月にDX推進のため「DX・IT推進部」を設立し、全社的な変革を目指しています。各部の担当者を統合した「DX推進室」を通じて、組織を超えた連携体制を構築しています。また、外部との人財交流を促進し、先進的な知見や技術を柔軟に取り入れる環境を整えています。さらに、経営層が参加する「DX・IT推進会議」を毎月1回開催し、迅速な意思決定を行なっています。



DX・IT推進部の役割

IT部門とすべての領域(事務・技術・生産準備・生産)のDX専任者を統合したDX・IT推進部を発足し、意思決定を迅速に行なう。

DX・IT推進会議

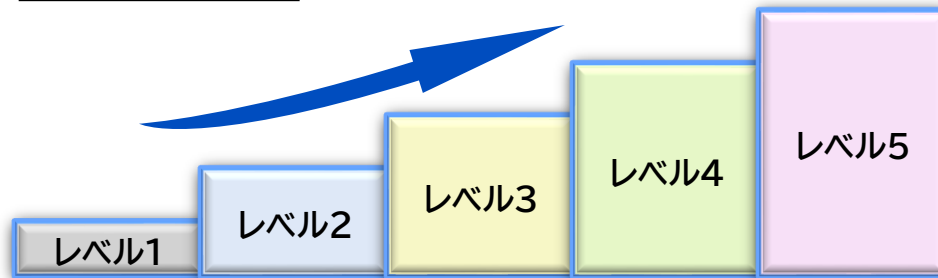
経営層および各部の代表者がDX推進の進捗を継続的にレビューし、重要課題はその場で決議する会議。

4. 実現に向けた戦略

◆デジタル人財

当社では、DXビジョンの実現に向けて、戦略的なデジタル人財の育成に取り組んでいます。デジタル技術やデータを使いこなし、業務改善へとつながられる人財を「DX人財」と定義し、育成を推進しています。「DX人財」には、「ITスキル」「データサイエンススキル」、「DXを推進するリーダーシップや考え方」に重きを置いた教育・育成を実施して業務変革とデジタル活用の両立ができる人財を育成します。また、全社的な底上げと選抜人財への重点育成を組み合わせることで、組織全体のデジタル対応力を強化しています。

レベル別教育



外部教育機関と連携し、トヨタ独自の教育プログラムを構築。
社内のパソコンユーザに対し、eラーニングや集合研修によるワークショップを実施することによりレベルアップを目指す。

ユーザー主体の実践教育



各部の実践的なスキルアップを目的に実践教育を実施。
本教育で各部で主体的に改善を進めていけるように伴走して指導する。

4. 実現に向けた戦略

◆実践事例①

・社内人財交流

狙い

: 業務変革とデジタル活用の両立が可能な人財の育成

実施内容

: DX・IT推進部と他部署との人財ローテーション

期待成果

: DXに強い人財の育成のみならず、他部組織へ波及し伝道師として多様な価値観が醸成されている。また現場起点でのアイデア創出活性化につながっている

・外部人財交流

狙い

: IT技術力の向上

実施内容

: DX・IT推進部人財をIT専門企業(Sier)へ出向

期待成果

: 最新の知識や高度な技術を学ぶことにより、IT基盤やシステム構築プロセスの進化を実現し、社内プロジェクトの品質・スピード・柔軟性の向上につながっている

狙い

: 新しい価値を生み出す取組の活性化

実施内容

: STATION Ai(オープンイノベーション拠点)へ参画し出向

期待成果

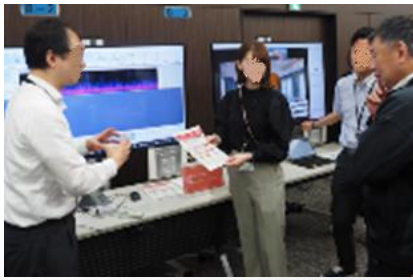
: 出向者が得た先進的な知見や人脈を新たな視点からの事業創出や業務改革アイデアに活用し、社内におけるイノベーションの芽を育てる

4. 実現に向けた戦略

❖実践事例②

・IT専門企業による社内技術展示会

狙い :IT・デジタル技術力の探求・向上
 実施内容 :ベンダーを巻き込んだ最新技術展示
 期待成果 :ITベンダーとの協業を通じて先進技術やソリューションを具体的に展示・共有することで、社内のDX推進への理解・関心を高めるとともに、各部署が自らの業務課題に対して主体的に対策検討するきっかけを創出。また、ベンダとの信頼関係強化により、今後の共創活動やプロジェクト立ち上げの加速が期待される。



・DX/デジタル改善事例展示会

狙い :デジタル活用社内文化醸成と横展開
 実施内容 :デジタルを活用した改善活動の表彰と展示および受賞式開催
 期待成果 :社内で実施されたDX・デジタル改善事例を紹介・共有することで、全社的なDX推進への理解と関心を高め、現場主導による自発的な改善活動を促進。また、部署間の連携を通じた施策の横展開や相互支援体制の強化にも寄与している。

表彰	部署名	事例名
Best AWARD	本社工場	有償支給かんばんのEDI化
BEST IDEA	生技管理部	自作アプリを使用したホワイトボード電子化
BEST KAIZEN	生産管理部	Access活用による型廃却調査工数低減

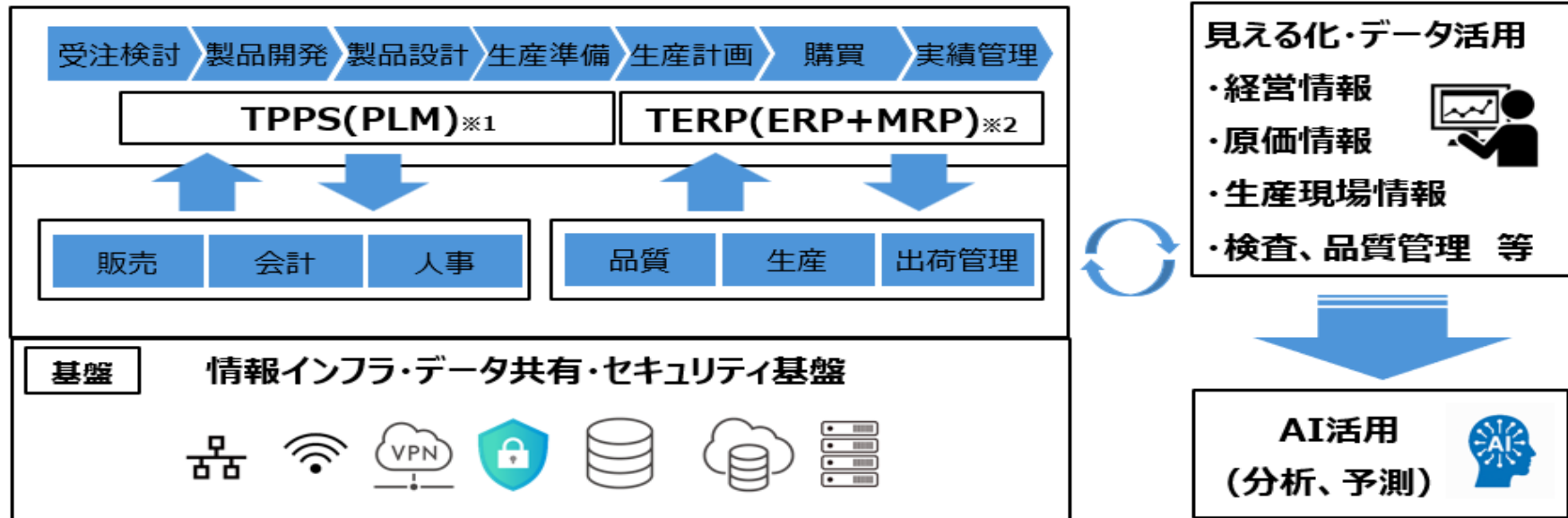
4. 実現に向けた戦略

❖実践事例③

・統合データプラットフォームの整備

これまで経営状況の把握には月次更新のタイミングを待つ必要があり、意思決定のスピードが課題となっていました。現在は、生産などの情報をリアルタイムに可視化し、経営層が迅速に状況を把握・判断できる環境を整備。あわせて、現場の各部署にも同様の情報を展開し、データを“自分事”として活用できるよう、全社に展開・定着させる仕組みを構築。全社での経営参画意識と行動が生まれつつあります。今後は、より高度なデータ分析・活用へと深化させ、組織の判断力と価値創出力をさらに高めていきます。

データ活用概要



※1 TPPS : Toyotetsu PreProduction System トヨタ独自開発PLMシステム

※2 TERP : Toyotetsu Enterprise Resource Planning トヨタ独自開発ERP+MRPシステム

・データドリブン経営の実現

成果 :経営指標のリアルタイム化、資料作成工数低減、ペーパーレス化など一定の効果を確認できた。

Figure 1 consists of three line graphs showing the monthly variation of water quality parameters (pH, DO, and TSS) for different water bodies (TW, TSC, TSA, TCA, TMA, TTM, TTX) from July to June. The graphs show seasonal fluctuations, with pH generally increasing from July to September and then decreasing, DO showing a significant peak in October/November, and TSS showing a peak in March/April.

5. IT・データ活用基盤

❖実践事例

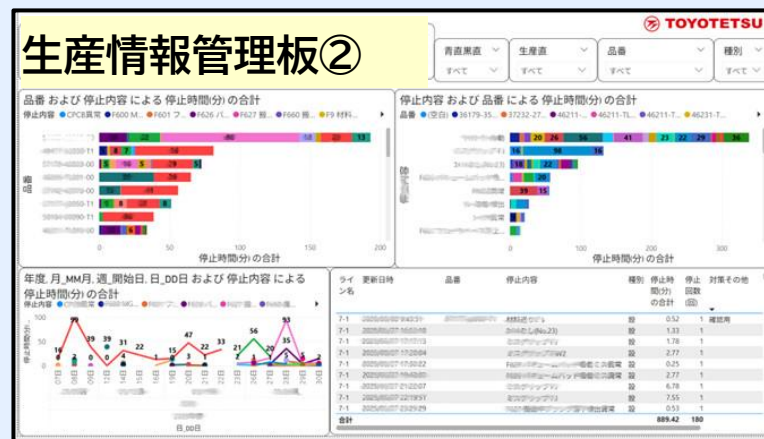
・スマート工場化活動

- 狙い : 材料発注から発送場まで要素技術を開発し、工程スルーで情報の見える化を図る
- 実施内容 : 設備稼働率・不良率・作業進捗をリアルタイムで可視化し、現場での改善活動を促進
- 期待成果 : 属人性を排した管理運用が進み、判断スピードと品質安定性の向上に寄与

生産情報管理板①							
TOYOTETSU 青直 2025/ / 17:21:44							
R3-3 R5-2 R6-1 R6-2							
稼働状態			稼働	稼働	稼働	計画停止	稼働
計画	159	163	133	125	32	0	32
実績	129	169	122	137	36	0	31
状態	00h01m	00h00m	00h00m	00h00m	00h00m	00h00m	00h00m
発生中	1 分	0 分	0 分	0 分	0 分	0 分	0 分
停止時間	58 秒	29 秒	0 秒	0 秒	0 秒	0 秒	0 秒
	1290	1440	916	1209	600	0	510
							1182

連絡事項 :

*プレスラインの稼働状況をリアルタイムで監視し、生産効率や生産異常をいち早く察知し対処する



*個々の組立ラインの異常をリアルタイムで吸い上げ、不具合に早期対処する

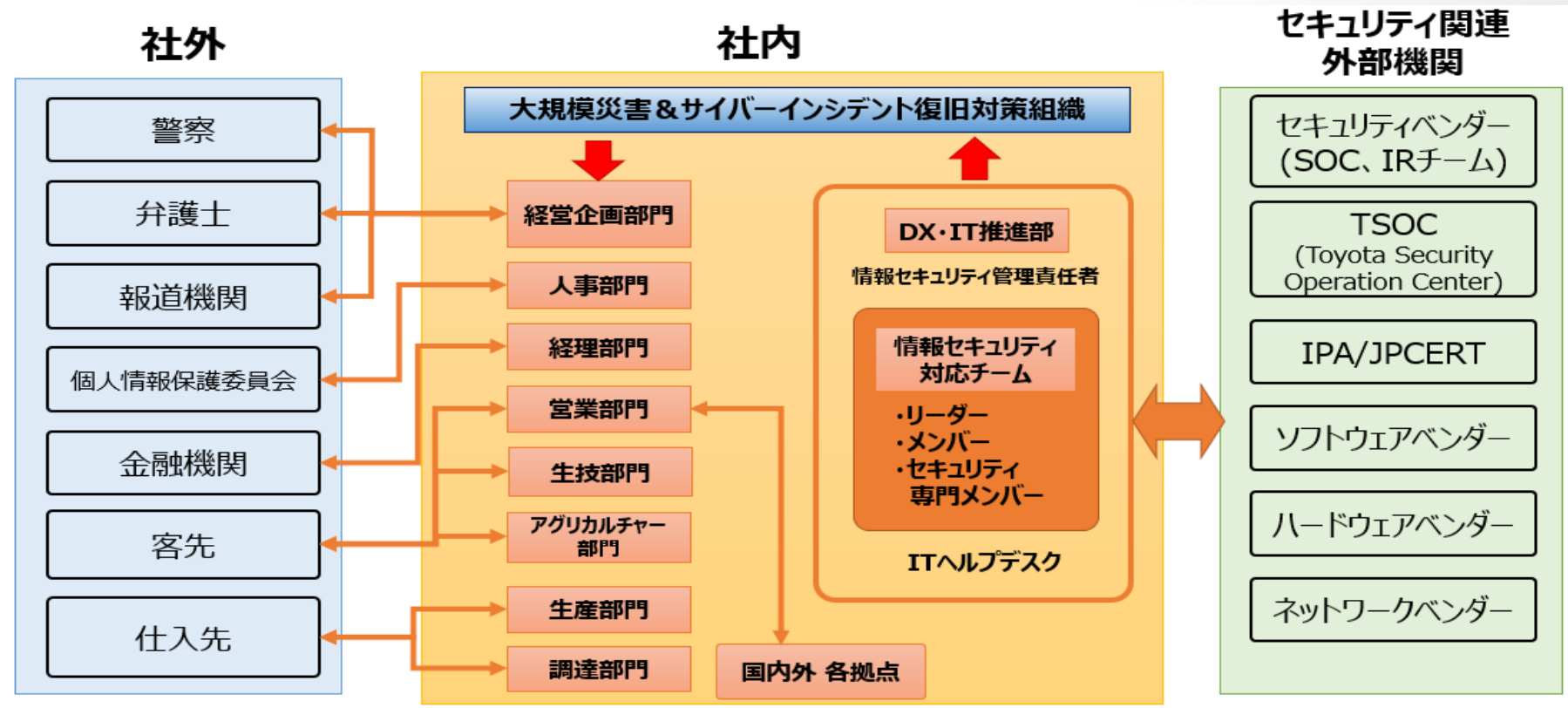


*日々の組立ラインの生産性を見える化し、問題を早期発見・対処する

5. IT・データ活用基盤

❖情報セキュリティ体制

当社では、ステークホルダーに安心なサービスを提供するために情報の取り扱いにも十分に配慮し、セキュリティをより強固なものにしていきます。社内外の関係者で発生したセキュリティインシデントについては社内にいち早く水平展開・予防する体制を整えています。



成果を計る指標(KPI)

トヨタのDXビジョンを現実にするため、私たちはDX推進に係る成果・推進指標(KPI)を設定しDXの推進状況を全従業員が確認・共有し、持続可能な先進的な企業を目指して行動します。
推進指標はDX・IT推進会議(1回／月)の中で確認し、達成に向けたアクションを取り続ける事でステークスホルダーにより良い価値を提供する企業への変革を目指します。

デジタル施策	KPI	目標値	KPI設定の理由
デジタル人財の育成	DX人財の育成	DXレベル5人財率:10%以上	より多くの人財がDXスキルを組織のパフォーマンス向上に役立てる
DX施策による業務改善	業務改善工数	AI・新技術活用による工数低減:30,000時間/年	AI活用を加速し、DX改善を利益向上につなげる
セキュリティ体制強化	確実な訓練の実施	サイバーインシデント対応訓練:年2回 仕入先サイバー訓練実施:年1回	緊急時の迅速な対応を身に付ける
IT基盤強化	インフラ整備	ITシステム故障回数低減:2回以下 ITシステム故障時間短縮:5.6h以下	働きやすいIT環境の整備